



子育てコラム

聴いて、認めて、ほめて育てよう！

日向小学校長 池田 優子

子どもたちは、お母さんやお父さんが大好きです。授業参観や運動会、学習発表会など保護者の方が見えるときが一番緊張をしています。実は一番頑張っています。そんな子どもたちが自信を持って活躍できるように、子どもたちの話をしっかりと聴いて、認めて、ほめて育てることが何よりも大切であると感じています。子どもの小さな努力、小さなやる気、小さな成長を見逃さないで欲しいと思います。

子どもの話に十分に

耳を傾けましょう

子どもの社会性を育てるためには、「子どもには自分の問題で自分で解決できる力がある」と信じ、まずは子どもの話に耳を傾けてください。子どもは何を訴えているのか、どうしたいのか、どうすればいいか、どうしているのか、子どもの側に立ち、よく聴いてあげてください。「聞く」で

はなく「聴く」ことを心がけて欲しいです。「聴く」とは、心をこめて聴く、熱心に聴くという意味です。相手の話に積極的に耳を傾けることを指し、相手が話していることの意味をしっかりと聴きとろうとする場合に使われます。子どもを見放すことなく、子どもに愛を伝え、子どもの側に立ち、子どもが自分に降りかかる困難を乗り越えられるようにすることです。子どもの力を信じ、自分で考えられるようにじっくりと待つことが大切です。

子どもを認めてあげましょう

「認める」とは、見たままの行動や成果を伝えるときに使います。これは相手（子ども）が基準の言葉です。つまり、自分や他人と比較をするのではなく、そのままの姿を認めることです。たとえば、テストで八十点をとったとします。「どうして百点がと

れないの。」ではなく「ここはきちんできていたね。」と言ってあげることです。部屋の掃除をしたけれど、片づけがうまくできなかった場合も、「きれいにしようとしたのね。」と頑張ろうとしたことを認めてあげてください。子どもの長所が光るのは、日々の暮らしのほんの些細な出来事においてです。見逃さず、できたこと、頑張ったことを認めてあげてください。

子どもをほめてあげましょう

「ほめる」とは、期待通りの行動や成果を出した時に使います。これは自分（親）が基準の言葉です。子どもをほめることは大切な愛情表現の一つです。子どもは親の言葉に励まされて、自分が認められ愛されていると感じます。そして、ますます長所を伸ばすことができるようになります。大切なことはほめる場面を作りだせるようにすること



です。おつかいを頼み、それができたら「上手に買いものができたね。」、宿題をきちんとしていたら、「すぐにやれてえらいね。」とほめます。そこに「頑張ってくれているから、お母さんほうれしいよ。」「お父さんもほめていたよ。」などの言葉が加わると、子どもはますます自信を持つことができます。言葉でほめるだけでは足りない子どもの場合は、十分にスキンシップをしてあげましょう。

【子育て相談受付中】

子育てで悩んだ時、困った時、不安になった時など子育てに関することならどんなことでも気軽に相談ください。

相談電話 ☎(80)1456

受付時間 月・水・木・金曜日

午前9時～午後4時半

(水曜の午後祝祭日を除く)

教育委員会生涯学習課